

第1章 計画の概要

1 | 計画策定の考え方

江東区では平成 27 年 3 月に「江東区スポーツ推進計画」を策定し、区民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しめる環境整備に取り組んできました。

また、令和 2 年 3 月には新たな「江東区スポーツ推進計画（第 2 期）」を策定し、東京 2020 大会を契機としたスポーツ振興と、伝統的に受け継がれてきた下町人情や発展を続ける臨海部など、区の魅力・強みを生かしたスポーツ施策を推進してきました。

そして、この度、令和 4 年 3 月に国が策定した「第 3 期スポーツ基本計画」や「東京都スポーツ推進総合計画」、「江東区長期計画」の考え方などを踏まえ、前計画の取り組みを継承しつつ、区民スポーツのさらなる普及振興を図るため、「江東区スポーツ推進計画（第 3 期）」を策定しました。

2 | 計画策定の社会的背景

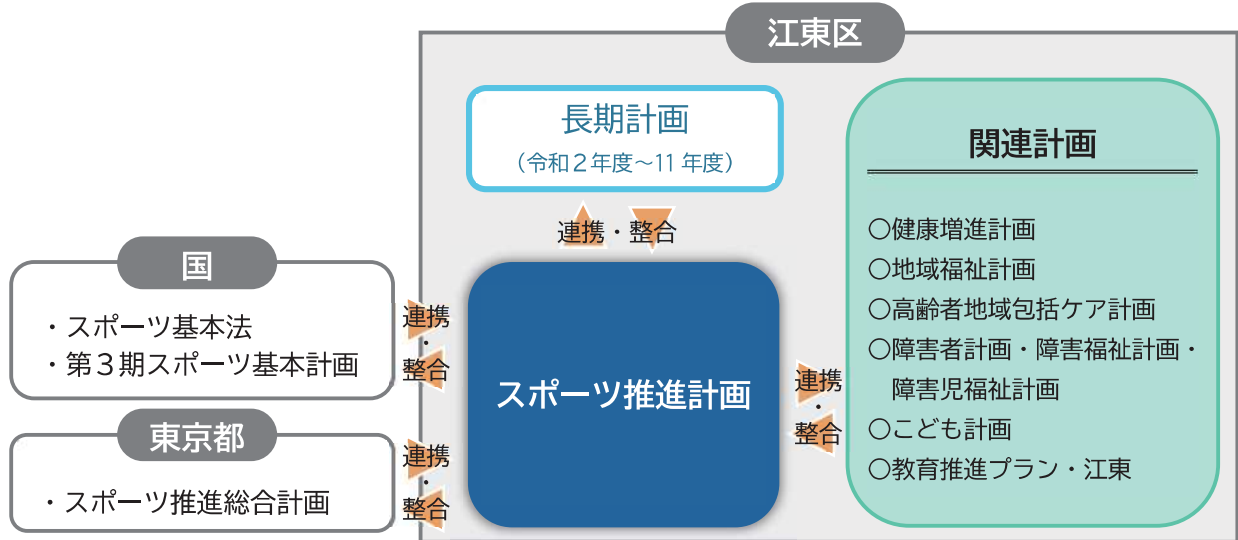
スポーツには、体を動かすという人間の本質的な欲求を満たすことで、体力の向上、ストレスの発散、健康の維持・増進など、心身両面にわたる健康の保持と向上が期待されます。加えて、チームによる活動や仲間づくり、応援やサポートを通じて心を育み、生活や地域社会を豊かにする力も持っています。また、障害者スポーツについても、共生社会の実現に向けた重要な手段として位置づけられています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行は、スポーツをとりまく環境に大きな変化をもたらしました。練習や大会の中止に加え、仲間と集う機会も制限され、スポーツに親しむ機会が一気に失われることとなりました。新たな生活様式にあわせてスポーツの在り方を模索する中で、令和 3 年に開催された東京 2020 大会では、残念ながら無観客開催となりましたが、世界中から集まったトップアスリートが日本全体に感動を与え、スポーツの意義を再認識する機会となりました。

今後開催が予定されている、東京 2025 世界陸上や東京 2025 デフリンピックなどのメガ・スポーツイベントに向けて、スポーツに対する関心がさらに高まっている中、社会環境の変化や価値観の多様化により新しいスポーツの楽しみ方も広がりつつあり、スポーツをとりまく状況は大きな変革を迎えています。

3 | 本計画の位置づけ

本計画は、上位計画である「江東区長期計画」の下、関連計画や国、東京都との整合を図ったうえで、区のスポーツに係る基本計画として策定します。



4 | 計画期間

本計画の計画期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)
江東区長期計画	10年間									
江東区スポーツ推進計画	第2期					第3期（本計画）				